

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書

様式1

No. 09010050

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 (補助対象) ・事業費 102,000千円 ・補助率 55% ・事業量 用水路 一式、圃場配管 2箇所 ・事業期間 平成24年度～平成28年度 (補助対象外) ・計画樹立～平成23年度 ・事業費 1,607千円
基本施策	1	農業の振興	事業優先度	A		
単位施策	1	土地基盤の充実	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)		
事業名	団体営かんがい排水事業					
事業期間	平成25年度～平成28年度					
事業主体	雄武町					
事業指標	事業効果の実証					
事業目標	受益農家への普及PR					
住民参加	無					
住民協働	無					
			見直し年度			
			担当課	9 産業振興課		
			関係課	#N/A		
			ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
			関係例規・法令名	無		
			関係個別計画名	有 農業農村整備事業管理計画		

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
全体計画		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計画内容	事業内容	・管路工 L=3,650m ・末端散水施設 2式	地質調査 一式 7,000千円 管路工 L=1,200m 14,000千円	管路工 L=1,500m	管路工 L=693m	管路工 L=257m ・末端散水施設 1式 ・末端散水施設(地上配管)1式
	事業費(千円)	80,680	21,000	21,000	12,044	26,636
計画事業費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	44,373	11,550	11,550	6,624	14,649
	地方債	33,000	6,300	9,400	5,400	11,900
	その他	0				
実績事業費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	28,576	11,030	10,922	6,624	
	地方債	20,600	6,300	8,900	5,400	
	その他	0				
	事業費(千円)	52,431	20,253	19,859	12,319	0
関連事項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	団体営かんがい排水事業補助金起債(過疎対策)	【評価・実績】	調査設計、管路工	管路工、用地補償	管路工、用地補償	
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-休止	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続(継続有り)	年度目標値	管路工 L=1,200m	管路工 L=1,500m	管路工 L=950m	末端散水施設 1式
	第6期計画への継続(継続無し)	年度達成率	96%	95%	102%	0%
		全体達成率	25%	50%	65%	65%
	備考欄				#DIV/0!	

事業名	団体営かんがい排水事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	農地整備係長	苫米地 幸二

様式1
平成27年度実施
平成28年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	団体営かんがい排水事業受益者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	飼料作物の干ばつ被害の影響	
【抱える課題やニーズは】	干ばつによる草地被害における営農への影響	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	畑地かんがい施設の導入による粗飼料の高位安定及び品質向上	① 管路工の実施	目標年度	平成27年度
			目標値	950 m
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	粗飼料の高位安定、品質向上による酪農経営の安定化を図る。	② 用地補償の実施	実績値	693 m
			達成度	72.9 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	管路工の実施	民間業者へ発注し、管路工を実施した。		
	用地補償の実施	工事施工に伴う立毛補償の実施及び土地使用貸借契約を締結した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	国営事業の関連事業として位置付けられている事業であり、干ばつ等による草地被害を防ぎ、粗飼料の高位安定等を図るためには、末端までの畑地かんがい施設の整備が必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	国の予算割り当てが少なかったため、事業量が減少しているが、概ね畑地かんがい施設の整備を行うことができた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	事業の実施にあたっては、年度ごとの計画どおり進められており、効率的と判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	利用にあたっては、施設利用者から利用料を徴収するものであり、受益者負担があることから公平と判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
干ばつによる草地被害を防ぎ粗飼料の高位安定を図るためには畑地かんがい施設の導入が必要であり、今後も計画どおり事業を進めることが必要である。		

今後の展開方向
(Action)

休止		
酪農経営の安定に大きく寄与するものであることから、引き続き実施すべき事業であるが、補助対象事業から外れたため、負担が大きくなることから、一時的に休止し、他補助事業による実施について検討する必要がある。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止